

【年頭のご挨拶】

令和3年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、ご清栄のうちに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年一年間、それぞれの立場において業務遂行を熱心に取り組んでいただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、一昨年末に中国湖北省武漢市で発見されたとされる新型コロナウイルスが、1月16日に武漢市より日本に帰国した男性から初めて検出され、その後2月に入り、横浜港に到着したクルーズ船『ダイヤモンドプリンセス号』の乗員・乗客712名の感染が発表されました。

北海道でも、札幌雪まつりを境に感染者が増加し、鈴木知事が、3月5日に緊急事態宣言を発令したのを皮切りに当時の安倍首相も日本全国に向けて緊急事態宣言を発令しました。

その結果、一時的に感染者は減りましたが、その後第2波・第3波と増え続け、いまだ収束の目処が立っていない状況です。当社においても、3密を避け、手指消毒、マスクの着用及び現場事務所・会議室の消毒・換気、衝立の設置など、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めているところです。

世の中の出来事に目を向けてみますと、新型コロナウイルス感染症の影響で春・夏の高校野球甲子園大会が中止となり、また、昨年7月に開催予定でありました2020東京オリンピック・パラリンピック大会も本年に延期になったほか、他のイベントなども中止・自粛となり、残念な1年となりました。また、政界では、8月に安倍前首相が辞任表明し、9月16日に菅新内閣が発足しました。

そんな中、身近な明るい話題としまして、当初4月24日にオープン予定でありましたウポポイ（民族共生象徴空間）が7月12日にオープンし、さらに、12月13日には、苫小牧市民待望の道央自動車道苫小牧中央インターチェンジが開通したことは、記憶に新しいところです。

さて、現在の建設業界にとっての課題は多々ありますが、依然として人材不足が深刻な問題であり、そのために、「i-Construction」などによる生産性の向上を進め、「働き方改革」等の推進により建設業が若者にとって魅力ある業種と感ずることで、建設業を目指す若者が一人でも多くなることを望んでいます。

当社においても、昨年同様、従来の3Kから良い意味としての新しい3K（希望・給料・休暇）に向けて、週休2日制の推進などの「働き方改革」を積極的に取り組むと同時に、厳しい企業間競争に勝ち抜くためには、「i-Construction」を含めた若手技術者の技術・知識の向上が不可欠であると考えており、職員の皆さんには、『今、自分は何をすべきか』を理解していただき、自己研鑽に励むことを期待します。

また、我々建設業の仕事は、いつの時代も安全・安心の上で成り立っていることを忘れてはなりません。安全で安心して働くことが出来る現場の環境づくりに向けて、これまで以上に積極的に取り組んでいただくことを切にお願いする次第です。

最後になりますが、今年の干支は、「丑年」であります。

「丑年」は、よいことの前触れの年と言われています。牛は、古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、「丑年」は、『我慢（耐える）』、『これから発展する前触れ（芽が出る）』というような年になるといわれています。まさに、今年は、このコロナ禍の状況を発展する前触れと捉え、役職員・協力会社の皆さんと一緒に、これから先にある可能性を信じて、活気ある職場になりますように努力する所存です。

結びに、皆さんとご家族にとって充実した幸多い年になりますことを心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和3年 元旦

菱中建設株式会社

代表取締役社長 山崎 啓二